

協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 014

(2019/20年度 USDA 米国農務省 9月12日発表)

[ハイライト] ①世界の穀物/大豆需給は米中貿易戦争の中 US 産輸出が縮小、コーンは前月比価格を大幅に下げたが大豆は 12 日中国の 100 万トン買付報道を受け \$9.0 まで上伸。ただ南米 BRA の増産/輸出拡大は止まらず持続性は疑問。②そんな中、先月末安部ランプ会談において US 産コーン 275 万トンの前倒し輸入が発表されたが農水省説明は理解不能。業界にはその必要性も貯蔵サイロの余裕も無い。現在、国内飼料穀物サイロ容量は 49 か所/約 470 万トン、飼料穀物備蓄 85 万トン/副原料麦類取扱等含めほぼフル稼働状態である。この発表はランプの“Rust Belt”ならぬ “Corn Belt”対策と言える。③中国を震撼させているアフリカ豚コレラ (ASF) は 9/17 韓国に波及、別図の通りフィリピン含めアジア全域に蔓延、中国豚肉生産は今年末 2 千万トン減 (世界の 20%弱) すると言われ世界の食肉/穀物業界の消費流通構造を揺るがしている。一方、日本の豚コレラは 9/17 埼玉で 43 例目発生、養豚主産地域である関東全域 (飼養頭数 234 万頭/全国比 25%) に拡大すればその影響は甚大でありワクチン接種等政府対応が急がれる。④先月は世界の爆発的人口増とそれを支える穀物生産の関係を述べたが、今月は大豆等油糧種子生産と海上貿易量拡大の関係を別表に整理した。

1、世界穀物需給の概要 (大豆除く)

- ① 生産量：2,656 百万トン (前年比 1.2%増、前月比▲0.3%)
- ② 消費量：2,666 百万トン (前年比 1.3%増、前月比▲0.2%)
- ③ 貿易量：431 百万トン (前年比 1.2%増、前月比▲0.8%)

2、とうもろこし

- ① 生産量：1,105 百万トン (前年比 ▲1.5%、前月比▲0.3%)
- ② 消費量：1,128 百万トン (前年比 ▲0.4%、前月比▲0.1%)
- ③ 貿易量：170 百万トン (前年比 ▲3.6%、前月比変わらず)
- ④ 概況：全体生産量は US 産が前月比単収減 (169.5⇒168.2bu) から若干減産。US 産輸出低迷・エタノール使用減等から需給関係は緩んでいる。価格は \$3.43/Bu (前年\$3.54/Bu、前月\$4.00/Bu) と前月比\$57 下落した。

3、小麦

- ① 生産量：766 百万トン (前年比 4.8%増、前月比▲0.3%)
- ② 消費量：756 百万トン (前年比 2.8%増、前月比▲0.3%)
- ③ 貿易量：181 百万トン (前年比 4.7%増、前月比▲1.0%)
- ④ 概況：生産量は AUS/KAZ 等の減産はあるが EU/US 等増産により前年比拡大。輸出量は前月比若干減少したが拡大基調は変わらず。価格は \$4.60/Bu (前年\$4.86/Bu、前月\$4.91/Bu) と前月比\$31 下落した。

4、大豆

- ① 生産量：341 百万トン (前年比▲5.7%、前月比▲0.1%)
- ② 消費量：353 百万トン (前年比 2.0%増、前月比▲0.3%)
- ③ 貿易量：149 百万トン (前年比 0.6%増、前月比 0.2%増)
- ④ 概況：生産量は前年比 US 産大幅減産▲24、BRA 増産+6 百万トンで双方の #1 の座は逆転。消費量は中国減あるも EU 東南アジア増で前年比拡大。価格は \$8.45/Bu (前年\$8.32/Bu、前月\$8.50/Bu) と前月比\$5 下落した。

注 1) 上記 1 の「穀物」は小麦・粗粒穀物 (とうもろこし含む)・米の合計量

注 2) 価格は、シカゴ商品取引所における各月第一週週末の期近価格

世界の穀物・大豆等の需給

2019年9月12日
米農務省発表：単位100万トン

主要穀物世界の需給						
	生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量	
全穀物	2017/18	2,616	3,413	415	2,600	813
	2018/19	2,625	3,438	425	2,633	805
	2019/20	2,665	3,467	434	2,670	796
	8月	2,666	3,461	431	2,666	795
小麦	2017/18	762	1,024	182	743	282
	2018/19	731	1,013	173	735	277
	2019/20	768	1,044	183	758	285
	8月	766	1,043	181	756	287
粗粒穀物 (とうもろこし等)	2017/18	1,359	1,744	186	1,375	369
	2018/19	1,395	1,764	208	1,408	356
	2019/20	1,399	1,754	205	1,418	336
	8月	1,396	1,752	205	1,416	336
大豆	2017/18	342	437	153	338	99
	2018/19	362	461	149	348	112
	2019/20	342	456	149	355	102
	8月	341	454	149	355	99

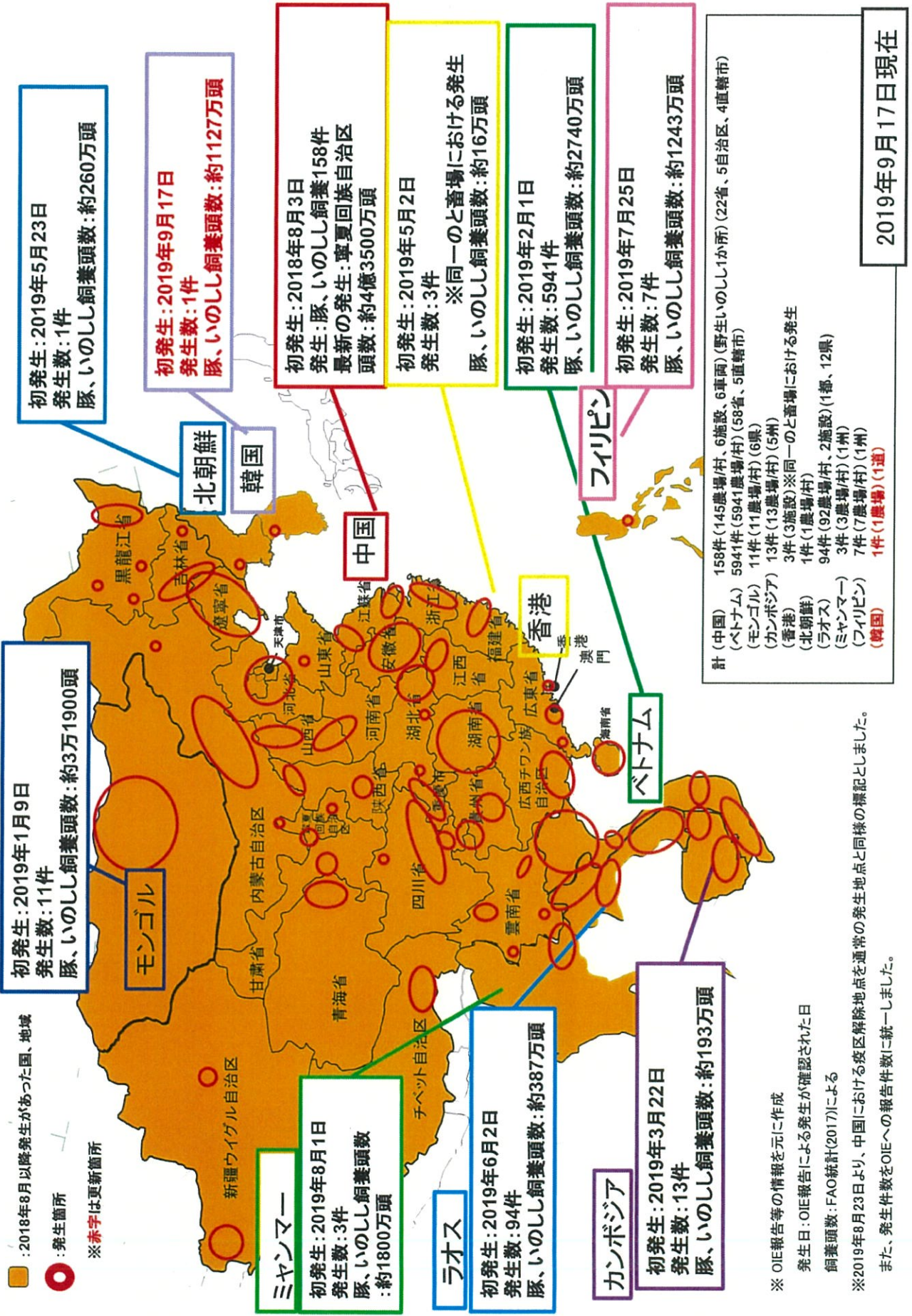
世界のとうもろこし需給							
	期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量	
世界計	8月	328.58	1,108.24	169.34	1,129.09	169.90	307.72
	9月	329.55	1,104.88	169.44	1,128.16	169.90	306.27
アメリカ	8月	59.96	353.09	1.27	306.85	52.07	55.40
	9月	62.12	350.52	1.27	306.21	52.07	55.62
アルゼンチン	8月	4.09	50.00	0.01	15.00	33.50	5.59
	9月	4.09	50.00	0.01	15.00	33.50	5.59
ブラジル	8月	6.31	101.00	1.00	68.00	34.00	6.31
	9月	5.49	101.00	1.00	68.00	34.00	5.49
EU	8月	7.25	64.80	21.00	82.50	2.00	8.55
	9月	7.25	64.80	21.00	82.50	2.00	8.55
日本	8月	1.40	0.00	15.60	15.60	0.00	1.40
	9月	1.40	0.00	15.60	15.60	0.00	1.40
中国	8月	211.84	254.00	7.00	277.00	0.02	195.82
	9月	211.84	254.00	7.00	277.00	0.02	195.82
ウクライナ、 ロシア	8月	1.87	49.50	0.06	14.90	34.70	1.83
	9月	1.87	49.00	0.06	14.80	34.70	1.43

脚注1：粗粒穀物とはとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。
脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。
脚注3：ウクライナ、ロシアは両国の合計。

世界の大豆需給							
	期首在庫		生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	8月	114.53	341.83	148.87	354.32	149.17	101.74
	9月	112.41	341.39	148.20	353.41	149.39	99.19
アメリカ	8月	29.13	100.16	0.54	60.98	48.31	20.54
	9月	27.36	98.87	0.54	61.04	48.31	17.43
アルゼンチン	8月	30.45	53.00	3.90	52.15	8.00	27.20
	9月	29.35	53.00	3.90	52.15	8.00	26.10
ブラジル	8月	27.15	123.00	0.20	46.50	76.50	27.35
	9月	28.20	123.00	0.20	46.50	76.50	28.40
中国	8月	20.20	17.00	85.00	102.70	0.13	19.37
	9月	19.74	17.10	85.00	102.70	0.13	19.02
EU	8月	1.34	2.65	15.10	17.66	0.23	1.20
	9月	1.14	2.60	15.10	17.56	0.23	1.05

世界の小麦需給							
	期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量	
世界計	8月	275.49	768.07	179.00	758.16	182.63	285.40
	9月	277.24	765.53	176.79	756.26	180.83	286.51
アメリカ	8月	29.18	53.89	3.67	32.60	26.54	27.60
	9月	29.18	53.89	3.67	32.60	26.54	27.60
アルゼンチン	8月	1.39	20.50	0.01	5.85	14.50	1.55
	9月	1.89	20.50	0.01	6.05	14.50	1.85
オーストラリア	8月	4.97	21.00	0.15	8.50	12.50	5.12
	9月	4.97	19.00	0.15	8.50	10.50	5.12
カナダ	8月	4.67	33.30	0.45	9.30	24.00	5.12
	9月	6.18	33.30	0.45	9.60	24.50	5.83
EU	8月	9.74	150.00	5.50	127.50	26.50	11.24
	9月	10.09	151.00	5.50	127.50	27.50	11.59
中国	8月	139.77	132.00	3.50	128.00	1.30	145.97
	9月	139.77	132.00	3.20	128.00	1.30	145.67
インド	8月	16.99	101.20	0.02	98.00	0.50	19.71
	9月	16.99	102.19	0.02	98.00	0.50	20.70
ロシア	8月	7.99	73.00	0.48	40.00	34.00	7.46
	9月	7.83	72.50	0.48	39.50	34.00	7.31
ウクライナ	8月	1.41	29.20	0.08	9.70	19.50	1.48
	9月	1.59	28.70	0.08	9.40	19.50	1.46

アジアにおけるアフリカ豚コレラの発生状況



※ OIE報告等の情報を元に作成

発生日: OIE報告による発生が確認された日

飼養頭数: FAO統計(2017)による

※2019年8月23日より、中国における疫区解除地点を通常の発生地点と同様の標記としました。

また、発生件数をOIEへの報告件数に統一しました。

世界の大豆等油糧種子生産と海上貿易量の拡大

- ①先月号で述べたように、世界人口が1950年25.3憶人から2020年76.6憶人(約3倍増)と爆発的增加をもたらしたのはそれを上回る穀物生産であるが、同時に大豆等の油糧種子生産拡大の貢献も大きい。また、油糧種子はその流通性が高く、約32%(約2憶トン)が輸出され海上輸送量拡大に寄与している。逆に、ローカル品目である米は生産量に占める輸出比率は9%程度(45/494百万トン)であり対照的である。
- ②大豆は、搾油後大豆粕が蛋白原料として配合飼料に利用されるが、これが食肉生産には不可欠である。表で示したように大豆等油糧種子10品目の生産量は2001年⇒2019年の間323⇒600百万トンと、約280百万トン増、特にその太宗を占める大豆は、184⇒362百万トンと倍増している。
- ③大豆を含めた穀物(小麦/大麦/コーン/米等)貿易量は同期間260⇒550百万トン増で倍増しているが、その内大豆貿易量は54⇒149百万トンと約1億トン増で3倍増となり、大豆全生産の41%(149/362百万トン)が輸出され、その流通性が極めて高く海上輸送量増を大幅に引き上げている。
- ④併せて、大豆副産物である大豆粕貿易量は2019年66百万トン(ARG30/BRS15/US12百万トン)と大きな物量であり、海上輸送量を底上げしている。
- ⑤今後、大豆も含め菜種/綿実/ひまわり種等の油糧種子は蛋白原料源、或いは油脂原料として生産/貿易量が増加するとともに、食肉需要が高まる中で、その"争奪戦"が各地で高まることが予想される。
- ⑥なお、全世界で配合飼料に使用される大豆粕量は約1億7千万トンと膨大(配合飼料生産量11憶トン×15%、大豆粕生産量2.4憶トン×配合使用率75%の面統計から推計)。また、菜種粕使用量も配合飼料の3%前後(約3千万トン超)と想定される。

